

# 京都府宮津市天橋立におけるハマベゾウムシの再発見

黒田悠三<sup>1)</sup>・齋藤琢巳<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 624-0851 舞鶴市大内野町 47-3(e-mail:y-kuroda@dance.ne.jp)

<sup>2)</sup> 〒 661-0045 尼崎市武庫豊町 3 丁目 2-25, サンヴェール武庫之荘 913 号  
(e-mail:caw91250@pop21.odn.ne.jp)

## Rediscovery of *Isonycholips gotoi* Chûjô & Voss, 1960 in Amanohashidate, Miyazu City, Kyoto Prefecture

Yuzo KURODA and Takumi SAITO

### はじめに

ハマベゾウムシ *Isonycholips gotoi* Chûjô & Voss, 1960 (図1) は、体長 3.8–4.2 mm で、北海道から九州にかけて分布し(森本, 1993), 海浜の砂中に打ち上げられたアマモ類 *Zostera* spp. の堆積物中に生息することが知られている(長谷川ら, 2016).

本種は、1960年三重県津市の海岸部で採集された個体をホロタイプとして記載されて以降、同県内の記録は途絶えてしまい、「三重県レッドデータブック 2005, 2015」(三重県農林水産部みどり共生推進課, 2015; 三重県環境保全事業団, 2005) では絶滅種とされたが、2016年6月15日に同県松阪市の海岸で58年ぶりに再発見された(乙部, 2016a).

本種の京都府からの従来の記録は、宮津市天橋立, 30-VIII-2003, 田中勇採集(水野, 2004), 同所, 6-VI-2004, 沢田佳久採集(沢田, 2004), および同所, 1, 9, 12, 13, 23-VI-2005, 安川謙二採集(安川, 2005) がある. 恐らく2003年の田中勇氏の採集が

京都府における初記録であり、同氏によると浜辺の藻屑をめぐって偶然に採集した(田中, 私信)とのことである.

筆者らは、2017年6月、同所において最後の記録から12年ぶりに本種を採集し、その生息を確認したので報告する.

### 記録

20 exs., 京都府宮津市文珠天橋立海岸, 16-VI-2017, 齋藤琢巳採集・保管(図2).

8 exs., 同所, 16-VI-2017, 黒田悠三採集・保管.  
採集方法は、砂浜の汀線付近に打ち上げられたア



図1. ハマベゾウムシ(天橋立産, スケールは1 mm)。



図2. 篩い落とした砂上を歩き始めるハマベゾウムシ(天橋立産, 2017年6月16日, 齋藤琢巳撮影)。



図3. 天橋立海岸に打ち上げられたアマモなど(2017年9月21日, 黒田悠三撮影)。

マモ (図3) を篩にかけ、受け皿または叩き網の布の上に落下した砂の中から探し出す方法による。

### 考察

全国的にもハマベゾウムシの生息地が減少していると言われている中、京都府においてもアマモの繁殖地が少ないうえに、天橋立は日本三景の一つとして有名な観光地であり、夏は大勢の海水浴客で賑わうため、海浜の清掃作業などによる本種の生息の維持が懸念されてきた。

本種は、2016年6月、安川謙二氏が再調査するため、3度にわたり当地を訪問し採集を試みたが1個体も採集できなかった(安川, 2017)とのことである。しかしながら、この翌年、筆者らによる調査では多数の生息を確認することができた。

乙部(2016a, b)は、本種が水中生活にも適応力があり、頑丈な脚は砂に潜るためだけでなく、水中でアマモ上を歩行し、波が荒い時でもアマモから引き離されないのに役立っていると考えられるとし、生息地から海が時化したときにアマモにしがみつき、そのまま離れた海岸に漂着して分布を拡大できると推測している。当地においては、日頃海浜の打上げアマモ除去の清掃作業が行われてきたにもかかわらず、本種が生息していたことから、アマモが絶滅しないかぎり生存していく能力を備えているのではないかと考えられ、かりに一時姿を消したとしても、アマモさえ存続していれば復活する可能性は十分考えられる。

筆者の一人、黒田が知るかぎり、京都府におけるハマベゾウムシの生息地は天橋立だけであり、アマモの繁殖する海岸もごくわずかのようである。

天橋立における本種の生息状況については、今

後も定期的なモニタリング調査が実施されることを期待する。

末筆ながら、ハマベゾウムシの現在採用されている学名についてご教示をいただいた東京農業大学の小島弘昭博士および標本写真の撮影をしていただいた愛媛大学ミュージアムの吉富博之博士、ならびに採集時の情報提供をいただいた田中勇氏に心からお礼申し上げる。

### 引用文献

- 長谷川道明・金 郁彦・大場裕一, 2016. 知多半島で確認されたハマベゾウムシについて. 豊橋市自然史博物館研報, (26): 19-21.
- 三重県環境保全事業団, 2005. 三重県レッドデータブック 2005 動物. 498 pp.
- 三重県農林水産部みどり共生推進課, 2015. 三重県レッドデータブック: 三重県の絶滅のおそれのある野生生物 2015. 757 pp.
- 水野弘造, 2004. 京都府北部産ゾウムシ科目録 (A) 4-vii-2004. insect 丹後・若狭, (85): 5-13. 丹後・若狭虫の会.
- 森本 桂, 1993. 海浜の甲虫類概説. 昆虫と自然, 28(11): 2-6.
- 乙部 宏, 2016a. 三重県におけるハマベゾウムシ 58年ぶりの再発見. 月刊むし, (548): 22-28.
- 乙部 宏, 2016b. 三重県で58年ぶりに再発見したハマベゾウムシについて. ひらくら, (60): 89-90.
- 沢田佳久, 2004. WEEVILS 浜辺のゾウムシ 31.viii.2004:1. ii.2008 加 筆. <http://www.geocities.jp/natureland7869/hamazo/hamazo.htm> (2017年8月2日アクセス)
- 安川謙二, 2005. ハマベゾウムシを天の橋立で採集. insect 丹後・若狭, (88): 3.
- 安川謙二, 2017. 「珍品ハマベゾウムシの10年後の生息」. insect 丹後・丹波, (131): 5. 丹後・丹波虫の会.

(2018年4月15日受領, 2018年6月14日受理)



**Yoshida, T., Karner, M., & Hirowatari, T., 2018.**

**A revision of Taiwanese species in the genus *Psammoecus* Latreille (Coleoptera, Silvanidae). *Zoological Studies*, 57: 18.**

日本産のセマルヒラタムシ属 *Psammoecus* は Yoshida & Hirowatari (2014) により再検討されており(本誌19号に解説あり)、今回は台湾産種が再検討された。その結果、1新種を含む9種が確認

された。いくつかのシノニムも認めており、日本産では下記の変更があったようだ。

アラメセマルホソヒラタムシ *P. harmandi* Grouvelle, 1912 (= *Psammoecus boreas* Yoshida & Hirowatari, 2014)

ヨツモンセマルヒラタムシ *P. dentatus* Grouvelle, 1883 (= *Psammoecus scitus* Yoshida & Hirowatari, 2014)

(吉富博之 愛媛大学ミュージアム)